年間第8週・金曜日 68業が愛である: 使徒職

年間第8週・金曜日

68業が愛である:使徒職

- 葉だけが茂っていたいちじくへの 呪い。いつも、あらゆる状況は、実 りある聖性と使徒職のための好機で ある。

一「良い考えではなく、業が愛である」。内的生活は、実際に具体的な ことに表れる。

一神への愛は、喜んで進んで使徒職をすることに表れる。

68.1イエスは葉だけ茂らせたいちじくの木を呪う。各瞬間、あらゆる状況は聖性と使徒職の実りを生じる機会である

イエスは、ベタニアを去って数マイル離れたエルサレムに向かいました。イエスは空腹を覚えられました。聖マルコは、今日のミサの福音

の中で私たちに教えています¹。 こ れはキリストの人性が見られる出来 事の1つです。私たちに近づき、人 間の本質の限界と必要性を共にした いと思われました。次に私たちがそ の本質を聖化することを学ぶよう に。福音は、イエスが少し離れた所 にあるいちじくを見つけ、実がなっ ているかどうか見に行ったと述べて います。しかし、いちじくは葉の他 は何も見つけることができませんで した。いちじくの季節ではなかった からです。それでイエスは言われま した。「今から後、いつまでも、お 前から実を食べる者がないよう に1。彼らは、その日遅く、エルサ レムからベタニアに戻り、いつもの ように、ラザロ、マルタ、マリアに 快く迎えてもらい、手厚くもてなさ れ、夜を過ごしたのでしょう。そし て次の日、聖なる町に出かけると き、彼らは皆、いちじくの木が根元 から枯れているのを見ました。

イエスはいちじくの季節ではないこ とを知っていました。いちじくの木 に実がなっていないこともご存じで した。けれどもイエスは弟子たちに 決して忘れてほしくない教えを伝え たかったのです。それは、神が聖性 と良い行いを期待してユダヤの人々 のもとにおいでになったのに、ご覧 になったのは上辺だけの生気のない 律法遵守、つまり役に立たない葉ば かりだったのです。このとき、使徒 たちは、実を結ぶのに悪い時はない ことを学びました。私たちは自分自 身を聖化するために、特別の状況を 待つことはできません。神は、病気 の時や、毎日の普通の仕事の中で、 良い行いを期待して私たちの所に来 られます。働き過ぎた時も、すべて のことがうまくいっている時も、す べてが整えられて平和である時も。 イエスは平穏な時と同様に、疲れた 時も、成功する時も失敗する時も、 神がお許しになるなら起こる経済的 に破産する時も、うまくいっている

時も、私たちを訪れてくださいま す。そういう時こそ、実を結ぶこと ができるだけでなく、結ぶべき時な のです。育った実はそれぞれ異なる でしょう。しかしいずれもユニーク で素晴らしい実です。神は私たちが 必要とする恩恵を与えてくださいま すから、あらゆる状況の中で神を見 出すべきなのです。尊者ビードは言 います。「あなたもまた、貧しくな られたイエスに、主が必要としてい る実を捧げるために、実をつけない 木にならないように気をつけなけれ ばなりません」²。イエスは、私た ちが、何時、何処でも、それぞれ考 えられる限りの状況の中で、常に行 いで愛することを望んでおられま す。私たちは、自分の置かれた状況 の中で、今、この瞬間、実を結ぶ努 力をしていますか? 友だちを神のと ころに連れて行くために、もっと ぴったりした時が訪れるまで待って 居るのでしょうか?

68. 2 愛は甘い言葉ではなく行い を意味します。内的生活は行いで表 されます

イエスはここで強い言葉を使ってい ます。「今から後、いつまでもお前 から実を食べる者がないように!| とイエスは言われます。イエスは、 見かけだけ豊かで、葉しかないいち じくの木を呪います。それは弟子た ちの心にその教えを刻み込む印象深 い行動でした。キリスト者の内的生 活は、本物であれば、他の人々に奉 仕するという実際的な行いの実りが あります。エスクリバー師が次のよ うに私たちに思い出させてくれま す。内的生活なしに行われた行いの 危険性が強調されていますが、私た ちも行いのない内的生活の危険性を 強調するべきです。もしそのような 内的生活あるとすればですが。

愛とは甘い言葉ではなく、行いであることを意味します。何年も前、何

人かの修道女にご聖体を配っていた時に、貧しい司祭の魂に燃えるような明晰さで神が刻み込んだこの愛情のこもった叱責 - 神の言葉 - を感動せずに思い出すことはできません。沈黙の内に心の中で、「私は彼女たち以上にあなたを愛します」と、イエスに話している時のことでした。

子どもたちよ、行動し始めなければなりません。起き上がり、勇気と元気、生きている喜びをもって行わなければなりません。なぜなら、「完全な愛は、恐れを締め出す」(1ョハネ4・18参照)からです。勇敢に、臆せずに…。

「意志のあるところに道は通じるということを忘れるな。神はできることをすべて行う人々に援助を拒まない」³。信仰によって生き、あらゆる状況において私たちの手の届く方法を使う必要があります。使徒職を始

りを訪問し、彼らへの友情をもって 慰めをもたらすことなど。

あらゆる状況において様々な方法 で、常に、内的生活は継続的な慈し みの業である使徒職の行いに溢れ出 るべきです。行いに表れない内的生 活は、ただの亡霊にすぎません。衰 えて消失していくのです。キリスト との親しさが増すにつれて、仕事、 人格、犠牲をしようとする心構えが すべて高められることは頷けます。 また、社会的調和 - 理解、真心、 楽観主義、秩序、親切 - の徳に助 けられ、日々の生活で、他人と付き 合う方法も高められるでしょう。こ れこそが、主が、私たちの行いを調 べるために来られる時に、日々の生 活の中で見出したいと望まれている 実りなのです。愛が成長し存続する ためには、それを行いそのもので表 す必要があります。

68.3 神の愛は、快活で進取的な 使徒職に顕れます

イエスは葉だけしか見出しません。 内的生活を持つことは、神の視野で 使徒職の働きを見ること、神の洞察 力を持って生きることを意味しま す。使徒的実りは、キリスト者が、 深い内的生活の支えなしに忙しく物 事を行う傾向を持つ行動主義の餌食 (えじき)になる時、持続することは できません。すさまじい活動は、結 果を生じない効果のないものに変わ り、度々、意向の正しさに欠けるし るしとなります。それは、何の超自 然的展望もない、全く人間的な活動 です。おそらく私たちがすることは すべて、それが最高に卓越した仕事 であっても、それらは野心や人から 注目を浴びたいという望みの結果で す。たとえそれ自体は良くても、そ れらを支える内的生活を持たない行 動主義、つまり行動の数だけが増大 している危険性を強調するには充分 な理由があるのです。聖ベルナルドと後に続く多くの著述家はこのような働きを呪われた仕事と呼びました4。

しかし、使徒職における実りの欠如 は、消極主義や愛の行いの欠如に よっても生じます。行動主義が悪 く、結果を生じないものなら、消極 主義は死のようなものです。それ は、信心の業を行っていれば神を愛 しているのだという考えに導くから です。信心の業を行っても完全では なく、良い行いをするようには導か ないというのは本当です。このよう な内容のない信心の実行は、いちじ くの木の役に立たない実りのない葉 のようです。真の内的生活は、私た ちを勇気ある、大胆で自発的な活動 へ必然的に導くからです。どのよう な状況でも、私たちが勇気を持って 大胆にイニシアティブを持って行動 するように強いるのです。私たちが 喜んですべての人に尊敬を示し、い

つも若々しい愛から生じる喜び、生 きる喜びに根づいて先に進むことを 意味します。今日、この祈りの時に 主と話しながら、私たちの人生にお いて実りがあるかどうか、まさに今 この瞬間に糾明することができま す。内的生活、祈りの溢れとしての イニシアティブを持っていますか? また、反対に、自分がいる環境の中 で、- 教室、工場、会社で - 自分 は何もできない、神のためにもっと 何かすることは不可能だと思ってい ますか? 自分の時間を与えています か? 使徒的仕事を効果的に手伝いま すか? それともただ祈りだけをして いるのですか? 自分の仕事、家族生 活と信心生活で時間がないと言い、 自分を正当化しようとしますか? も しそうならば、仕事や家庭生活の環 境は、使徒職の機会の場ではなくな ることを意味してしまうでしょう。

愛は行いである。神の本当の愛は、 ねばり強く行われた使徒職に見られ

ます。また、私たちが、朗らかで、 絶えず続く使徒職を伴わない信心の 行いで満足して、消極的であること が分かるなら、そのとき多分、神は 私たちの心に「言い訳をせずに、 もっと行いなさい | とおっしゃるか も知れません。愛が本物なら、常に キリストを知らせる多くの機会に事 欠かないでしょう。深い使徒的熱意 のない内的生活は衰え、消滅しま す。それは幻影にすぎません。聖書 著者は記しています。次の日、彼ら は、いちじくの木が根元から完全に 腐っているのを見ました。安楽や怠 **惰を好むか犠牲の精神に欠けるにし** ても、いずれにせよ、これは神がお 望みの実を結ばない人たちの絵に見 るようなイメージと言えます。すべ てのキリスト者があるべき使徒の生 活は、枯れたいちじくの木とは反対 のものです。使徒の生活は、使徒職 への朗らかな熱意と行いで表された 愛、静かですが着実な行い、快活さ の溢れなのです。

私たちの生活を調べ、神に良く熟れ た果実を差し出すことができるかど うか見てみましょう。神は喜びに満 ちて行う犠牲の精神によって成し遂 げられた実際的な結果を期待してお られます。神は霊魂の飢えと渇きを もって私たちに近づかれます。霊的 指導を通して、行動主義(もっと祈 る必要のある)と進取の気性の不足 (もっと行動しなければならない) の違いを区別することを学びます。 聖母マリアは、私たちの内的生活、 神を愛したい望みが、役に立たない 価値のない葉を生み出すものになら ないように振舞うことを教えてくだ さるでしょう。

¹マルコ11:11-26

² St Bede, Commentary on St Mark's Gospel, in loc

³ 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter, 6 May1945,44

⁴ J.D.Chautaud, The Soul of the Apostolate, Kennedy, New York 1 933, p.69参照

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VIII-kin/ (2025/12/17)